

2010年度イギリス（ロンドン）研修旅行レポート

ロンドンで会おう 世界の人々！！

本学では例年、海外研修を実施しています。

今回の行き先は、イギリス ロンドン。学生の専門性に合わせた施設の視察や、異文化体験を目的としています。リハビリテーション施設「ボバーズセンター」や老人福祉施設、子育て子持ち支援政策施設などを訪問したり、ロンドンやオックスフォードの市内観光にも訪れます。

この度、引率の先生はじめ学生から楽しい旅のレポートが届きました。下の研修日程一覧表からご覧いただけますので、どうぞお楽しみください。

研修期間

2011年3月22日（火）～3月28日（月） 7日間（5泊7日）

滞在都市

イギリス（ロンドン）

参加人数

18名

同行教員

中部学院大学人間福祉学部 三上章允 教授

中部学院大学短期大学部 横山さつき 准教授

研修日程

	月日	都市	時間	スケジュール
1	3/22（火）	中部発 ソウル発 ロンドン 着	07:30 13:10 16:20	中部国際空港→ソウル・インチョン空港【2時間5分】 インチョン→ロンドン・ヒースロー空港【12時間10分】 ロンドン着後、ロンドン市内へ【ロンドン泊】
2	3/23（水）	ロンドン	終日	*イギリス医療施設の視察 ロンドン市内見学【ロンドン泊】
3	3/24（木）	ロンドン	終日	オックスフォード日帰り見学【ロンドン泊】
4	3/25（金）	ロンドン	-	福祉施設見学 イギリスの子育て子持ち支援施設訪問とレクチャー【ロンドン泊】
5	3/26（土）	ロンドン	終日	各自、自由研修フリータイム【ロンドン泊】
6	3/27（日）	ロンドン 発	朝 夕方 19:50	出発まで各自フリータイム ヒースロー空港へ ヒースロー空港→インチョン空港【所要時間10時間50分】

7	3/28 (月)	ソウル着 ソウル発 中部着	14:40 19:00 20:45	ソウル到着後、乗換【所要時間 1 時間 45 分】 中部国際空港着後、解散
---	----------	---------------------	-------------------------	--

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.1

第1日目：3月22日（火）

日程

- 中部国際空港→ソウル・インチョン空港
- ソウル・インチョン空港→ロンドン・ヒースロー空港
- ヒースロー空港→ロンドン市内(チャーターバス)
- ロンドン市内のレストランにて夕食→ホテル

3月22日（火）いよいよ7日間のロンドン研修が始まりました。

今回の参加メンバーは大学および短期大学部生 18名です。

レポート担当：YK

アテンションプリーズ！！

日本を離れてロンドンに出発～！！

ドキドキ...



出国前の記念撮影

レポート担当：AT

インチョン空港に着くまで1食、インチョンからロンドンまで3食でした。他に飲み物が数回出ました。使用した飛行機がコリアン・エアーということで機内食ではビビンバを食べたり、朝鮮料理の名物を食べることができました。おいしい食事に素晴らしい景色を見ることができ有意義な時間を過ごしましたが、12時間座りっぱなしというのは苦痛でしたし、時差を感じるという経験をし、ロンドンの飛行場に到着したところで疲れがどっと出ました。機内では個別に好きな映画を選らんで見ることや音楽を聴くこともできました。特に映画は最新の映画が含まれていてとても魅力的でした。



機内での様子



機内食のビビンバ



インチョン空港の様子

レポート担当：EM

ロンドンの街は、昔ながらの家が多くとてもおしゃれです。



タウンハウス

夕食に食べたフィッシュ&チップスは、私が思っていたよりも大きく、サラダとチーズケーキもついてボリューム満点でとてもおしかったです。イギリスの名物を食べる事ができてよかったです。



フィッシュ&チップス レストラン

付き添い教員：SY

出発からホテル就寝までいくつものトラブルがありましたが、皆の協力で無事クリアしました。武勇伝もできました。

付き添い教員：AM

どんなトラブルがあったか全部書きちゃいましょう。

1. 飛行機に乗り遅れた人がいた。
2. 乗り遅れなかったけれど集合時間に大幅に遅れた人がいた。
3. 125 ボルト使用の電気器具を使用して部屋のヒューズを飛ばした人がいた。
4. 部屋のカードキーが働かず、交換してまた働かず、フロントに4回もクレームを上げた人がいた。

(仲介したのは私ですが、、、)

でも、こうしたトラブルは人生では何度もあるはずです。乗り越えてこそ成長できるでしょう。したがって、よい研修になっていると思います。現時点では致命的ではありません。乗り遅れた人もそれにめげず、翌日の飛行機でロンドンに来るそうです。これも勇気のある立派な選択です。

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.2

第2日目：3月23日（水）

日程

- 午前：イギリス医療施設の視察
- 午後：ロンドン市内見学

レポート担当：EY

今日はボバースセンターに行きました。

ボバースセンターの受付の近辺に次のような文字が書かれていた。“children should not be left unattended any time”私はボバースセンターのことについて学んでいく中で、ボバースセンターに通っている親子共に目標に向かって治療をしているのだということが分かった。

また、リハビリは、体を動かすから筋肉が動くのではなく、筋肉を動かすからこそ、脳に刺激を与えているのだと考えたのである。

最後に、今日の視察をしてみて、CP（脳性麻痺）の知識や遊戯療法を使った方法も改めてしることができた。



説明をうける学生



ボバースセンターの様子

レポート担当：MS

この春ロイヤルウエディングが行われるウエストミンスター寺院の前を通ったら思いがけなくウエディングドレス姿の花嫁を見ました。とってもすてきなカップルを見ているうちに私も結婚したくなりました。さあ、今日から相手探しだ！！

レポート担当：SK

今日の夕食は、イギリスのパブでロースとビーフを食べました。日本のロースとビーフとは違い、ミディアムではなくウェルダンできました。パサパサしていましたが、ソースがおいしかったので、すぐなくなっていました。また、個人的話ですがイギリスのビールを4種類ほど飲んだところ、一番おいしかったのはギネスという黒ビールでした。日本のアサヒのビールとは違い、炭酸の無いビールで少し癖がありますが、ビールが好きな方は日本でも飲めるのでぜひ飲んでみてください。

付き添い教員：SY

今日の午後はロンドン市内をバスで巡りました

市内のあちこちで工事が行われており、来年のロンドンオリンピックの準備が着々と進められていました。来年はロンドンオリンピックで渡英したいな。

付き添い教員：AM

ボバース・センターはボバース法のリハビリテーションを行う世界の施設のメッカである。今回の研修で

は、スケジュールの調整がなかなかつかない中、見学の時間帯をずらして、レクチャーと簡単な見学だけの条件で引き受けてもらった。ボバース・センターに到着すると、簡単なレクチャーの後、2つの脳性マヒの治療の見学が準備されていた。結局は予定時間をオーバーする内容の濃い見学となった。そのため、その後の国立美術館、大英博物館の見学が駆け足になった。夕食では、昨日飛行機の乗り遅れてIさんが無事合流した。



大英博物館

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.3

第3日目：3月24日（木）

日程

- 終日：オックスフォード見学

レポート担当：YI

オックスフォードの食事とお店について・・・食事はスターバックスでドーナツケーキを食べた。

日本とは違ってかなり甘くとてもおいしく感じた！！

お店はアリスのお店に行き、アリスというのはモデルとなる女性がいることを知った。

さあ、知っていましたか？

更に薬局にも行き、日本よりもかなり格安でシャンプーなどが手に入った！！

とても良い買い物が出来たよ！！



アリスショップ

レポート担当：ES

Oxford 見学・・・Oxford 大学を見学してきました。

Oxford 大学は 39 のカレッジに分かれていて、その中でも歴史深い 3 つのカレッジを見てきました。それは、皇太子妃雅子様が学ばれたバリオルカレッジ・浩宮様が学ばれたマートンカレッジ・クリントン大統領が学ばれたユニバーシティーカレッジです。

昼食後、1 番楽しみにしていたハリーポッターの映画が撮影された場所であるクライストチャーチ（Oxford 大学内の教会）を見学しました。映画で大広間として使われていた所は、学生の食堂として使われていました。



Oxford 大学内の教会

クライストチャーチ



Oxford 大学内の学食

クライストチャーチは Disney でも有名な「不思議の国のアリス」を書いたルイス・キャロル（本名：チャールズ・ドジソン）が学生時代をすごしたカレッジ内の教会であり、ステンドグラスにはアリスの絵が

描かれていました。 ハリーポッターやアリスの所縁の場所を実際に見ることができ、自分も映画の世界に来たような気持ちになりました!!



クライストチャーチのステンドグラス

レポート担当：SF

乗り物報告です!!

パディントン駅はとっても広かったです!

赤・青・白の配色がとてもお洒落!!

地下鉄のマークは分かりやすい!

ロンドンではSUBWAYは地下鉄ではなく地下道なのです。

知っていましたか?



パディントン駅の様子

付き添い教員：AM

2日目までは、チャーター・バスでの移動であったが、3日目は公共交通機関での移動となった。学生18人、教員2人、添乗員1人、現地ガイド1人の22人の移動はラッシュで込み合うロンドンや観光客で込み合うオックスフォードで他の乗客の邪魔にならないように集合することに気を使ったり、脱落者がいないか確認したり、引率側は結構疲れる旅となった。帰路のパディントン駅では、改札を出たところで集合したところ1人不足していて、駅をあちこち探しても見つからず、どうしようかと思った。改札の向こうから行方不明者が現れたときはほっとした。オックスフォードの街をさんざん徒歩移動した後、パディントン駅から市内観光へとでかけたグループもあった。まだ30分ほど残っているが、3日目も無事に終了しつつある。

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.4

第5日目：3月25日（金）

日程

- 午前：高齢者向き小規模集合住宅視察
- 午後：イギリス子育て子持ち支援政策施設視察
（視察終わり次第フリータイム）

レポート担当：MI

Camden 地区のジェルタードハウジングの一つであるローリストンロッジには 55 歳以上の高齢者が居住しています、2DKの部屋は庭に面していてとても明るく、個性豊かな思い思いの内装が施されていました。ここまでは日本のケアハウスとそんなに変わりはありませんが、驚いたのは 48 人の高齢者を 1 人の管理人が月曜から金曜まで 24 時間住み込みでケアしていることです。

管理人さん（40 歳代女性）は心理学修士を修め 10 年のソーシャワークの後に管理人を務めておられます。とても、情熱を持って仕事に臨んでおり時間外のケアも楽しんでやっておられる様子に感動いたしました。



集合写真



ローリストンロッジでの様子

レポート担当：MH

午後は Islington 地区の子育て子持ち支援政策施設(The Factory Children's Community Project and Center)を訪問しました。

そこはイギリスに移住した人たちの社会適応を支援するための施設の一つです。母親への英会話スクールを開き、母親が受講している間、その子どもを専門のスタッフがケアしたり、働く母親のために朝 8 時～夕方 6 時まで子どもをあずかたりします。

日本と違うのは、子どもに朝食を提供した後、幼稚園に送り迎えをして、夕食を提供することです。このスタッフはとても温かく子どもたちはとても可愛かったです。ステキなファクトリーでした。



子持ち支援政策施設での様子



集合写真

レポート担当：AK

昼食はインド料理店へ

昼食は、インド料理でした。インドは、イギリスの占領国だったためか、ロンドンにはインド人が多くインド料理もとてもおいしかったです。ナン、チキンカレー、サラダ、インド米が出て、皆さんおいしいと黙々食べていました。ナンをお代りする方が続出でした！

最後にデザート、キャラメルアイスは甘すぎたけど、おいしかったです。

夕食は、フリータイムなので、各自で食事を取ったようです。

カップラーメンを持参し食事された方、ショッピングモールの中でピザやパスタを食事された方、ロンドンタワーの近くでフィッシュ&チップスを食事された方、それぞれ有意義な時間を過ごしました。



昼食はインド料理！

付き添い教員：AM

今日は高齢者を対象とした住宅施設と、主として低所得者層の子どものケアを行う施設の2つの施設の視察を行った。午前中に訪問した Lauriston Lodge の管理人である Ms. Rosie McBride さんも、午後には訪問した The Factory Children's Center の所長である Mr. David Vandivier さんもとてもアクティブにまた、陽気な方で利用者に好かれている様子がよく理解できた。また、David さんからは見学料を辞退し日本の東日本大地震の救援金として寄付するとの申し出があった。

ここが Factory の呼ばれているのは廃業したピアノ工場をそのまま使っているためで、ほとんど改造を加えずに上手に建物を利用していた。

午後 4 時過ぎにホテルに戻り、その後は自由行動となった。ロンドンの地下鉄の利用方法を習得した学生たちはそれぞれの計画に沿ってさまざまな方向へ散っていった。遅いグループは 10 時過ぎにホテルに戻ってきた。本日も無事終了しました。

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.5

第4日目：3月26日（土）

日程

- 終日：フリータイム

レポート担当：KM

ロンドン塔へ行ってきました！

お昼に中に入り、ジュエリーや甲冑また拷問器具などの展示を見て楽しみました。人は多いけど宝石は本当に見ごたえがあり、日本語のガイドブックなどもついていてわかりやすかったです。

一番おすすめしたいのは夜！中には入れませんが、いかにもロンドン塔らしい幽霊の出そうな外観に息をのみました。人も少ないので雰囲気もなかなか。ホラーな建物が好きな人は夜見に行くのもおすすめです。近くのタワーブリッジもきれいですよ～。



夜のロンドン塔

レポート担当：HH

カムデンタウンにあるカムデンマーケットに行ってきました。

様々な服やアクセサリ、食欲を誘う屋台が沢山ありとても活気づいていました。私は素敵な絵を買うことができ大満足でした！

しかし、今日は研修に参加した友人が2人もカメラをスリにやられ警察に届け出に行くというハプニングがありました。事情説明に四苦八苦して、もっと英会話ができたらなと痛感しました！

レポート担当：NB

今日はオプションツアーでウィンザー城とストーンヘンジとローマ大浴場に行きました。

ウィンザー城は、とてもきらびやかで高価な調度品が多く、美術館の中にいるようでした。城内はとても広く複雑な構造で、迷路みたいでした。

ストーンヘンジはその名の通り、高さ5mの石が並んでいる遺跡です。

石は、夏至の日の出と冬至の日没の方角を指すように配置されていますが、その正確な築造目的は謎でとても神秘的な雰囲気がありました。

ローマ大浴場は、広く大きな浴場でしたが、現在は硫黄臭が有り、ぬるま湯で水が濁っていました。

付き添い教員：AM

今日は1日フリー・タイム、それぞれが計画を立て自己責任で行動しました。

1人で電車を使ってウィンザー城に行った人、グループでもう一度オックスフォードへ行った人、ロンドン市内でショッピングした人などがいました。ウィンザー城、ストーンヘンジ、バースへのツアーに参加したグループもありました。それぞれが地下鉄や鉄道の切符を自分で購入し目的の場所に行って最終的

に「無事(?)」にホテルに戻ってくることができたという点で、今回の研修に参加した学生たちの成長の
見られた一日でした。しかし、トラブルもあり、カメラを紛失(盗まれた?)人が2名、地下鉄の1日
券を紛失した人が一名いました。カメラを紛失した1人は自分で警察にいて紛失届けを出していま
した。その後、添乗員の赤坂さんを巻き込んだ「武勇伝(?)」もありましたが、、とりあえず、何とかな
っています。



ロンドン市中心部でのデモ



ロンドンの公園

イギリス（ロンドン）研修旅行レポート vol.6

第6日目：3月27日（日）

日程

- 16:30 までフリータイム
- ホテル→ロンドン・ヒースロー空港
- ロンドン・ヒースロー空港→ソウル・インチョン空港

第7日目：3月28日（月）

日程

- 機内泊
- ソウル・インチョン空港→中部国際空港
- 解散

レポート担当：AN

ロンドン最終日！！

朝はぐっすり9時まで寝た。

朝食後はピカデリーサーカスのメリディアンホテルまでアフタヌーンティー（紅茶・サンドウィッチ・ケーキ・紅茶）を飲みに行った。だが予約が必要だったため、アフタヌーンティーを飲むことができず買い物をしてホテルへ戻った。紅茶が安く購入できた。安く良い買い物が沢山できて満足だ。ピカデリーサーカスもたくさんお店や飲食店があるからおススメ！

レポート担当：KI

今日は、朝ゆっくり過ごした。セインズベリーズへ10時頃に行った。OPENが7時なのにレジが開いたのが何故か11時だった。そのあとヴィクトリアアルバート美術館へアフタヌーン目当てに行った。しかしアフタヌーンをやっているカフェを見つけることが出来なかった。イギリスは、建物とか凄く歴史を感じられた。ロンドンには、ホテルを出ると写真とかで見ていた風景そのままだった。普段コンクリートと山にかこまれて生活している私にとっていい経験が出来た。



ホテル近くの住宅

レポート担当：CM

今日、前終日は朝9時に起きてごはんを食べました。

食べてからピカデリーにいきました。

紅茶と服を買いました。紅茶は1つで5ポンド、3つで13ポンドだったので3つ買ってから、さらに友達に1つ買いました。ピカデリーは昨日デモがあり街のガラスが割られたり、落書き、放火で約100人

が逮捕される程ひどい状態だったので心配でしたが駅のあたりは大丈夫でした。地下鉄は日曜日で工事中のため動かない線もありました。

ホテルに帰ってきてから荷物をまとめました。ホテルからは約 1 時間でヒースロー空港に着きました。飛行機は約 12 時間かけて韓国のインチョン空港に着きました。機内食はビビンバとお茶漬けを食べました。インチョン空港では搭乗時間まで約 4 時間あります。

早く日本に帰りたいなあ～。

レポート担当：添乗教員 SY

研修も終わりに近づき日本食が食べたくなりました。そこで、すしを食べましたが、しゃりがまずくて食べた気がしませんでした。大食いであり味にうるさくない私なのに・・・残念！！

あきらめきれず、今度は和菓子屋さんに入りました。きなこのおはぎを 2 個とおかきあられを一袋を買って公園で食べました。日本製でしたので味には満足しました。しかし、日本の半分の大きさのおはぎが約 330 円 (2.2 イギリスポンド) もしました。

帰りの機内では日本食が選べました。フライトアテンダントから、「お茶漬けにしますか、オムレツにしますか？」と聞かれ、「お茶漬け」と即答しましたが、出てきたのはパックされたお粥とお茶漬けのふりかけでした。

早くテッカテカに輝いたご飯を食べたい・・・

付き添い教員：AM

現在、インチョン空港で最後の現地レポートをまとめています。

26 日は 1 日フリータイムでしたが、一番最後にホテルに戻った人はロンドンの地下鉄の最終電車(1 時?) を使ってホテルに戻ったそうです。

最終日はホテル近くの自然史博物館からスタート、その後、ピカデリーなど街の中心部に行った人が多かったようでした。ホテル集合 16 時、全員無事戻ってきました。ホテル 1 階の 1 部屋を使って最後のパッキング。お土産を買いすぎた人が多く、ヒースローでのチェックインのスーツケース重量チェックで、27 キロ、25 キロ、23 キロなどの数値が出ていました。

ロンドンとインチョン間では皆ぐっすり寝たようで、感覚的には短いフライトとなりました。



自然史博物館



自然史博物館の様子

編集後記

今回の研修は参加した学生が18人だったので、3人ずつ6つのグループに分け、それぞれのグループが1日分のホームページを分担しました。

1日の行事がほぼ終了した21時に、担当者3人と教員がホテルのロビーに集合。ここで各自の原稿を確認し、、、というか、集まってから書く人が多く、コンピュータに入力する時間も含めると毎日1時間30分ほどかかりました。写真があればそれらをカメラのメモリーカードからコンピュータに転送、ミーティングは解散。後はホームページ担当の教員が適当な写真も選択し、ホームページ用に加工して情報センターに送る方式をとりました。

予想以上に時間をとられ寝不足続きの毎日でした。



インチョン空港にて
最後の打合せ



帰国後の集合写真